

## 令和元年度第3学期始業式 式辞（1月8日）

皆さん、明けましておめでとうございます。令和の時代になって初めての新年を迎えました。今日、皆さんが元気に登校し、始業式に臨む姿を見て大変うれしく思います。今日から1年間のまとめとなる3学期のスタートです。

3年生は、もちろん進路決定のための最後の頑張りの時ですし、高校生活の締めくくりの時期です。卒業後の4月からの新たなスタートに向けて、一日一日を大切に過ごしてください。2年生は、3年生に代わって本格的な学校の牽引役となります。また、自分自身の進路実現のために、今何をすべきか、これからどう行動するのかを考え、この3学期が3年生の0学期として、次の最高学年の意識を持って生活してほしいと思います。そして、1年生は、入学してからこれまでの生活をもう一度振り返り、初心に返って学習や部活動などに励んでほしいと思います。限られた短い時間の中で、充実した3学期となるよう、一人ひとりが目的意識をもって生活することを期待します。

さて、今年の夏は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。世界中からトップアスリートが集い、熱い戦いを見せ、昨年ラグビーW杯のように多くの感動を与えてくれることでしょう。

そのオリンピック・パラリンピックに対して、多くの自治体が行っている「ホストタウン事業」について皆さんは知っているでしょうか。「ホストタウン」とは、市町村などの自治体が、オリンピックに参加する国や地域と「事前キャンプ」や「イベント」などで交流し、オリンピックを盛り上げ、その活動で地域を活性化しようとする取り組みです。

ここ上山市は、ポーランドの陸上競技選手団のホストタウンですし、隣の山形市は、サモアや台湾、タイの柔道、村山市は、ブルガリアの新体操など、県内の14市町で「ホストタウン事業」が行われています。

その中で、今、挙げました村山市の取り組み、「ローズ・キャンプ」が決まるまでのエピソードを紹介したいと思います。キーパーソンは、矢口勝彦東京オリンピック・パラリンピック課長です。私の高校時代の同級生でもある彼は、スポーツとは全く無関係の経済が専門で、村山市役所では政策推進課に長く所属したバリバリの行政マンです。ところが、50才を過ぎたあたりで突然彼にアクシデントが起きてしまったのです。過労からだったのか脳卒中(脳梗塞)を発症し、休職を余儀なくされ絶望感にかられたと言います。それでも、幸い体の異常を早く発見したことと、粘り強いリハビリによって後遺症を残さず

に職場復帰を果たすことができました。

丁度その頃、平成25年9月に、2020年のオリンピック・パラリンピックが東京開催に決まりました。2020年は丁度退職の年、「何か夢を持って、最後の仕事を締めくくれないか」と考えたのが、このホストタウン事業だったそうです。そして、「村山市の花・薔薇」と関わりがある国はないかと調べていたところ、(日本では桜のように)「ブルガリアの国の花が薔薇」と分かり、しかも、前回2016年のリオデジャネイロ・オリンピックでは、新体操で団体銅メダルの強豪国と分かって、一層夢が広がったそうです。

しかし、当然、山形の村山という小さなまちの個人プランに対しては、誰からも相手にされなかったようです。そんな時、矢口君が私のところに訪ねて来たのです。当時私は、県庁の競技スポーツの担当で、創立記念式典の時に講演いただいたフェンシングの池田めぐみさんなどのオリンピックや「山形からオリンピック選手を・・・」を合言葉に、「YAMAGATA ドリームキッズ」の立ち上げの仕事を担当していましたので、まずは財源の確保が課題で、「スポーツ振興くじ toto」の助成金の活用とか、民間企業のスポンサーがあればと軽くアドバイスすることしかできませんでした。

それからが彼の豊富な行政の経験と行動力で、とてもスピード感に溢れていたと思います。まずは、実際その国に行ってみないと説明も何もできないということで、自費でしかも一人でブルガリアへ渡航しました。帰国後はすぐに、食品メーカーである「明治」に働きかけをしたそうです。この発想にも感心しています。(なぜだかわかりますか)ブルガリアはヨーグルトの本場、明治は、「明治ブルガリアヨーグルト」の発売元です。この縁を頼ってダメもとでホストタウンのビジョンを説明すると、明治側も賛同し、取引する山形の大手スーパーなど県内外の企業が次々とスポンサーに加わり、課題だった財源の確保ができたのです。そして、2度・3度とブルガリアに訪問するなかで、新体操の関係者への働きかけにも成功し、3年も経たないうちに、お互い共通の薔薇の花にちなんだ「ローズ・キャンプ」を実現させることができたのです。同時に、練習会場となる市民体育館が整備され、サポートする市民ボランティアやファンクラブが結成されるなど、行政と市民とが連携する中で、選手を受け入れ体制が整い、既に3度のローズ・キャンプが行われています。今年の夏も村山でキャンプを行い、東京オリンピック本番に向かう予定とのこと。彼は昨年、全国に先駆けてホストタウン事業に取り組み、他の取組みの模範となる中心的な役割を果たしたとして、国(内閣官房)からホストタウンリーダーに

選ばれています。

脳梗塞を発症し、人生最大のピンチに陥った一人の行政マンが、「何か夢を持って仕事の最後を締めくくりたい」と前向きに考え、行動したことがチャンスに変えて、自らが描く夢を実現させることができたのです。

人生の中で思うようにいかず、失敗する場面は沢山あります。大切なのは、物事を前向きに考え、決して諦めないことです。そうすれば必ず好転してきます。また、自分で決めれば頑張れますし、たとえ失敗しても成長や自信にも繋がります。

ぜひ皆さんも、「ピンチに陥った時でも、これをチャンスに」と捉えて、これからの生活の中で、まずは今年一年元気でポジティブに考えて頑張っていきましょう。皆さん一人ひとりにとって、そして、上山明新館高校にとって、よい1年であることをお祈りして、式辞といたします。